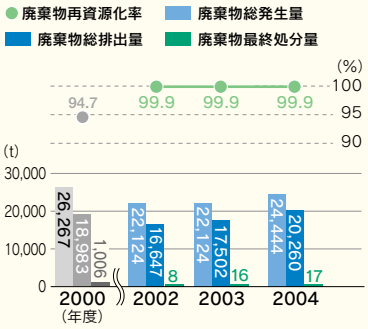
《日 本》

廃棄物再資源化率/総発生量/総排出量/最終処分量

❸リコーグループ(生産)



❹リコーグループ(非生産)

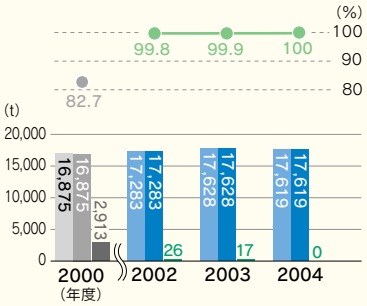
	廃棄物再資源化率(%)	廃棄物総排出量(t)	廃棄物最終処分量(t)
販売会社	85.2	2,255	335
保守・サービス(リコーテクノシステムズ)	98.5	2,477	36
物 流(リコーロジスティクス)	96.7	3,773	124
金 融(リコーリース)	90.6	57	5

※ 非生産会社は、廃棄物発生量と廃棄物排出量の値が同じため、廃棄物総排出量のみを掲載しています。(事業所内で廃棄物の処理を行っていないため)

《海 外》

廃棄物再資源化率/総発生量/総排出量/最終処分量

❺リコーグループ(生産)



廃棄物再資源化率：再資源化量／排出量
廃棄物発生量：事務所内で発生した廃棄物量
廃棄物排出量：事業所外に排出する廃棄物量(事業所内中間処理後の残さ量を含む)
廃棄物最終処分量：排出された廃棄物のうち、埋立量と単純焼却した量

※ 国内事業所の廃棄物集計方法の見直し等に伴い、グラフ❶❷❸について2003年度以前のデータを修正しています。

海外生産拠点でのごみゼロ活動

《上海リコー／中国、リコーウェリンボロー／イギリス》

上海リコーファクシミリ(SRF)および上海リコーデジタル機器(SRD)は、2004年12月に、ごみゼロを達成しました。社員の環境意識啓発を目的とした環境コーナーの設置や、全部署が参加する「ごみを使った工芸品コンテスト」を行う一方で、新たなリサイクル事業者を探すことも重要でした。上海市では、IC基板や廃トナー、油の付いたモップ、ボールペンの芯などは「危険廃棄物」とされており、焼却処理しなければなりません。しかし単純焼却ではリコーのごみゼロの定義を満たさないため、これらの廃棄物をエネルギーリカバリーできるリサイクル事業者を探し出しました。同社では現在、廃棄物を7種類に分別していますが、さらに分別を細分化して、有価物にしていく予定です。また、2004年9月英国の生産関連会社リコーウェリンボロープロダクツでもごみゼロを達成しました。

ごみゼロの維持と継続的な改善活動

《リコーエレクトロニクス／アメリカ》

米国の生産会社リコーエレクトロニクスは、2001年2月にごみゼロを達成して以来、廃棄・排出をさらに削減し、資源の有効利用を促進し続けてきました。「持続可能性提案制度」を設け、社員の自発的なプロセス改善提案を奨励し、環境負荷の削減と高い経済的成果をめざしています。2004年度は、「感熱紙ロール紙の包装材廃止」「部品梱包用段ボール箱や包装紙の再利用」「板金部品の打ち抜きの効率化」など504件の提案があり、社内表彰されました。こうした活動の成果は社会にも認められ、同社は2004年12月、カリフォルニア州の廃棄物管理統括委員会が主催する「廃棄物削減プログラム賞」のトップ10企業に選ばれました。

海外販売会社のごみゼロ活動

《リコーヨーロッパ／オランダ》

生産拠点でスタートしたごみゼロ活動は、現在では海外の非生産拠点にも広がっています。欧州の地域統括会社リコーヨーロッパ(REBV)は、2004年10月にオフィスとパーツセンター(ESPC)でごみゼロを達成しました。まず、オフィスやESPCでどのような廃棄物がどのくらい発生しているかを確認し、リサイクル事業者とともにごみ処理フローを改善することから活動をスタートしました。そして、約400名の社員の分別意識を向上させるために、環境プロモーションチームを設置。「ごみの種類や分別・回収方法」「ごみゼロ活動で節約できた資源の量」「ペーパーレス化を目指した両面コピー・電子化の推奨」などのポスターを作成するなど、継続的な啓発活動と資源使用量の削減を行いました。これらの活動によって、廃棄物処理コストも25%削減することができました。今後は、ドイツのデュッセルドルフにある支社でも活動を進めていく予定です。

オフィスの分別コーナー

ポスター